



都心からの移住者などが増えつつある埼玉県日高市のかま武藏台団地は豊かな自然に恵まれている



鳩山ニュータウンで若者らが開いたイベント「はとやまニュータウンマルシェ」(11月21日、埼玉県鳩山町)

西武池袋線の高麗（こま）駅から徒歩数分の場所に広がる埼玉県日高市のこま武藏台団地のショッピングセンターの一画に9月、共用の会員制ワーキングスペースが開設された。団地の造成を手掛けた東急不動産R&Dセンターが運営する。

Wi-Fi環境や新聞雑誌類、会議室などがそろい、リモートワークの場として活用できる。東急不動産の担当者は「新型コロナにより都心から郊外への人口流出傾向がある。武藏台でも需要がある」と判断した」と話す。こま武藏台は1977

人口減少で衰退の一途をたどっていた埼玉県のニュータウンが、新型コロナウイルスの感染拡大を機にリモートワークや感染対策、ストレスフリーなど「新生活様式」実践の場として再注目されている。都心からの適度な距離感や豊かな自然環境が都心在住者や若者を引き付けている。

都心から適度な距離、豊かな自然…

県内ニュータウン再注目

年に開発された埼玉県を代表するニュータウンだ。しかし、急速な少子高齢化、人口減少により空き家が自立つようになり、昨年からは東急不動産が東京大学と連携して空き家対策に乗り出しあると判断した」と話す。こま武藏台は1977

リモートワークの場に

▲こま武藏台団地 鳩山ニュータウン▼

若者中心に街再生計画

会活動や関連行事の多くが中止に追い込まれたが、自治会への加入件数は昨年に比べ2割近く増加した。感染が広がる東京都心を避け、武藏台に転居してきた人々もいた。こま武藏台は東京駅から電車で1時間半ほどの距離で、近くには曼珠沙華（まんじゅしゃげ）があり、群生する巾着田があるなど、豊かな自然に恵まれる。こうした環境が感染防止に加え、仕事や人間関係などのストレスから解放される場所として評価される。木俊博氏は「高齢者とい世代が楽しめる街づくりを進める」と話す。

新型コロナの感染拡大後、こま武藏台でも自治会活動や関連行事の多くが中止に追い込まれたが、自治会への加入件数は昨年に比べ2割近く増加した。感染が広がる東京都心を避け、武藏台に転居してきた人々もいた。

喫茶には菅沼さんの知り友人が多く集まり、移住希望者向けに菅沼さんのユーチューブチャンネルに喫茶の動画も作成。登録者が千人を超えるなど好評だ。菅沼さんは「新型コロナで喫茶は一時休業したが、オンライン配信のきっかけになった」と話す。

1971年から開発が始まった鳩山ニュータウンはバブル前に自然に恵まれた住宅街として注目を集めたが、その後は人口減少が進み、高齢化率は50%近い。消滅するニードが高まっている。このまま武藏台と並ぶ県内最大級のニュータウンといわれる鳩山ニュータウン（同県鳩山町）には新型コロナの感染拡大後、若者を中心とした街の再生計画が生まれた。17年

までは「若者の流入や地元商業・交流施設「鳩山コミュニティ・マルシェ」などで音楽や食を中心としたイベント「はとやまニュータウンマルシェ」を開いた。菅沼さんは「若者のひターンがみんなで、町が活気づいてきた」と話している。

みたい若者のニーズに合致した。

やまニュータウンマルシェ」を開いた。菅沼さんは「若者のひターンがみんなで、町が活気づいてきた」と話している。

こま武藏台と並ぶ県内最大級のニュータウンといわれる鳩山ニュータウン（同県鳩山町）には新型コロナの感染拡大後、若者を中心とした街の再生計画が生まれた。17年

までは「若者の流入や地元商業・交流施設「鳩山コミュニティ・マルシェ」などで音楽や食を中心としたイベント「はとやまニュータウンマルシェ」を開いた。菅沼さんは「若者のひターンがみんなで、町が活気づいてきた」と話している。

やまニュータウンマルシェ」を開いた。菅沼さんは「若者のひターンがみんなで、町が活気づいてきた」と話している。

やまニュータウンマルシェ」を開いた。菅沼さんは「若者のひターンがみんなで、町が活気づいてきた」と話している。